

# Desert Wind (No. 8)

Las Vegas Japanese Community Church

JULY 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山未樹

## 『爆発する命の力』

LVJCC 牧師 鶴田健次

エジプトのピラミッドの中で一つの壺が発見され、それがロンドンの博物館に納められました。ところが、ある時、係りの人がその壺を落とし壊してしまいました。すると壊れた壺の中から何か小さなものが出てきたので鑑定に回したところ、なんとそれは何千年も前の小麦の種でした。それからしばらくして、壺の落ちた辺りから小麦が芽を出し大変な話題になりました。その種は何千年も前のものですっかり干からびていましたが、まだ命があったのです。

さて、マタイの福音書の13章31、32節は有名な『からし種の譬え話』ですが、このたとえ話の中には祝福された人生の秘訣があります。イエス様は、福音書の中で神の国の真理を語られるのに、種を何度もたとえに用いられられますが、それは、種には命があるからです。そして、この種とは神の言葉であり、キリストの福音のことです。そこで今回は、このからし種の譬えから、『爆発する命の力』と題して三つのことを考えてみたいと思います。

まず第一は、小さな始まりにも無限の可能性があるので命の特長だということです。このからし種はクロガラシという種類で、やがて3~4メートルの木に成長します。

イエス様は、このからし種の性質を念頭に置きながら、たとえそれがどんなに小さな始まりであっても、そこに神の介入があれば、無限の可能性が広がるのだと教えておられるのです。神はギデオンの300人の兵隊を用いて13万5000人のミデアン人を倒されました。また神は、250万人のイスラエルの民をエジプトから連れ出すのに、どもりのモーセを用いられました。イエス様は、二匹の魚と五つのパンで5000人を食べさせられました。一滴の水の中には、嵐があり、波があり、宇宙大の広がりがあります。一人の人の勇気ある言葉が世界を変えます。マッチ一本の火が山を燃やしてしまいます。一粒のからし種にも、無限の可能性がプログラムされています。そのように、神の言葉には命があり、無限の可能性があるので。

第二は、内に秘められた命の力は引き出される必要があるということです。イエス様は、『ある人がそれを取って畑にまくと、それはどんな種よりも小さいが、成長すると、野菜の中でいちばん大きくなる』とおっしゃいました。からし種の中には神から与えられた生命力があるので、その種を畑に蒔けば、芽を出し、成長し、やがて実を結ぶのです。私たちは誰でも、自分の人生の中で、影響を及ぼすことの出来る場所を持っています。たとえば、家族、友人、同僚たちは私たちの影響を及ぼすことの出来る場所です。この人々と接するたびに、私たちは彼らの

人生に、聖書の言葉に基づいた言動と行動をもって種を蒔く必要があるのです。そうすれば、その蒔かれた種は、やがて必ず人々の心に大きな影響を与えることになるのです。

第三に、内に秘められた命の力には目的があるということです。32節の最後で、イエス様は『空の鳥がきて、その枝に宿るほどの木になる』とおっしゃいました。つまり成長するからし種の木は、空の鳥に住家を与え、安息を与え、さらに、その鳥があちこちに種を持ち運び、拡大再生産をするための手伝いをします。人生は、自分のためだけに生きると空しいものです。イエス様が『受けるよりは与えるほうが幸いである』とおっしゃったように、人間は他者の祝福のために生きるときが一番幸せです。そのためには、私たちは成長しなければなりません。しかし、この類の成長は私たちの努力によってなされるものではないというのが、この譬えから学ぶ教訓です。この世の原理では、私たちの成長は私たちの努力次第です。ところが神の国の原理は、私たちが御言葉の種を心の畑に植え、水をまくことです。そうすれば、神様が私たちを愛のうちに成長させて下さり、愛を基として、他者のために生きる者とさせて下さるのです。

## 証し

平山未樹

長いだけのクリスチャンで、救いの意味さえ理解していなかったのに、ラスベガスの日本人教会に通うようになって、相変わらず人に自分がクリスチャンであるとは言えず、何故か宗教という枠に縛り付けられるのが怖く人には言えない日々が続いていました。入門者クラスを取ることにになり、救いということを理解した時に伝道の大切さを学び、愛するが故救われて欲しい、そういう思いが芽生えるようになりました。なかなか仕事上難しかったのですが、今年の冬、祖母と母がラスベガスに来る計画が実現し、是非この教会の礼拝に来てもらいたいという願いも実現することが出来ました。礼拝以外でも、先生の家にお邪魔して、食事を交えながら、聖書の勉強をすることが出来ました。以前、祖母に聖書の御言葉の載った本を渡した時に、「もう聖書なんていい」と言われたのを思い出して、拒絶するのかもしれないと、祖母は先生の話に耳を傾け、聖書に興味があることがあったことに驚きました。母は眠そうに2人の会話を聞いていましたが、先生がイエスキリストの復活の話をし始めると目を見開き、私に「復活？」と聞いてきたので、「うん」と答えました。私は眠そうな母を見て、興味が無いと思っていたのですが、その思いとは反対に復活ということが物理的に理解出来ない祖母に比べ、母はずんわりと受け入れました。彼女達のラスベガス滞在中、神様は中野先生をラスベガスの地に連れて下さり、礼拝だけでなくまた教会に行き、中野先生のメッセージも聞くことが出来ました。約10日間の滞在の後、後を追うように2週間後に私も休暇で日本に帰りました。1度しかなかった日曜ですが、昼の礼拝に実家から少し離れた岡山市に住む祖母を連れて、近くの教会をインターネットで探し連れて行きました。岡山中央キリスト教会がホーリネス系とも知らず、インターネットで見た時に、ここがラ

スベガスの教会の教えに近いかな、と思い連れて行きました。

礼拝が終わり、お昼があるからどうぞ、と誘われ教会の方達との交わりの中を楽しみました。その話の中に、ここに以前いた鈴木先生が岡山を離れた後にロサンゼルス教会に行ったこと、その教会がWLAホーリネス教会であったことから、ラスベガスの教会の鶴田先生もWLAホーリネスですよ、という話になり、不思議な繋がりを感じました。そして、ある女性の息子さんが今度牧師になる、という話を下さり、3年程前にロス若者を対象としたクリスチャンのキャンプに行ってきた写真を見せてくれました。そのとき、驚いたのはその写真の中に先生の息子さんがいたことで、祖母は鶴田先生と会っていたことからとても驚き、たまたま選んだ田舎の岡山の教会がまさかロスの教会と結びつきがあるなんて、思いもよらぬ不思議な導きを感じ、祖母はその教会にそれ以来通うようになりました。その夜、母を倉敷ホーリネス教会に連れて行き、仕事で礼拝に行けない母が通える夕拝があり、母もその教会に通うようになりました。

ラスベガスへ戻った後に、母が軽い脳梗塞になったことを知らされました。母は、夕拝の途中にひどい頭痛に襲われ、もう教会という場所が合わないのかしら、などと思ったのですが、老犬の介護と仕事に疲れていたのか、脳梗塞だったことが判明しました。そのタイミングもまた不思議で、ちょうどその介護していた愛犬も母の脳梗塞になる直前に息を引き取り、ちゃんと母が静養できるようなタイミングでした。何故か教会で頭痛に襲われたことに関して、母は何かを感じたようでした。母が教会に行くということはあまり想像していなかっただけに、神様はどんな時に働くのかは決して私の目では測りきれないことが分かります。神様は必ず御心にそう願いは叶えて下さるという約束の下にまた日々祈り続け、これから愛する家族、友人のために祈りたいと思います。

## 案内・ニュース

- 7月8日(日)は中野雄一郎先生ご夫妻をお招きし礼拝のご用をさせていただきます。
- 7月15日(日)は教会総会です。過ぎた一年の恵みを覚え、また新しい一年に大きな望みを抱いて、ラスベガス教会の進むべき道が再確認される時でありますように。
- 7月18日(水)は6:30PMよりデュオ・タカセ・コンサートがもたれます。チラシを用いて多くの新しい方々をお誘いいたしましょう。
- 7月22日(日)は南加リトリートの講師であられる川崎廣先生が礼拝のご用をさせていただきます。
- 7月23日~25日は南加リトリートです。一年に一度のこの機会を霊的刷新の時とさせていただきます。

## DREAMS COME TRUE

- 教会堂の建設
- 敬老ホームの設立
- 幼稚園の設立

SPECIAL THANKS From  
Itsuko Hubbard

On May 27th, my husband, Vern Hubbard passed away after long series of illnesses. On June 8th, he was buried in his home town, Colfax, Washington, as he so wished, with full of military honors, surrounded by his family, relatives and friends. I would like to thank all of you at church for your support and prayers during illnesses and following passing of my husband.